

# 本研究の経緯と位置づけ

## 人工物工学研究センター [1992-]

- ▶ 一般設計学、機能モデリング、シンセシスのモデル論・・・
- ▶ 人工物を機能中心に捉える

発展形



## サービス工学序説 [吉川 2008]

- ▶ 機能－サービス－使用
- ▶ 潜在機能と顕在機能
- ▶ 機能量によるサービスの計量化

発展形



## サービス工学研究部門 [2002-]

- ▶ サービスモデル、サービスCAD
- ▶ サービスも人工物であり、概念設計
- ・機能レベルではモノと同一視が可



- ・ サービスドミナントロジックの視点と人工物研究における機能中心の視点の融合
- ・ 顧客による使用行為が融合における鍵
- ・ 人工物の交換価値と使用価値との関係を明らかにし、人工物の設計論的視点からサービス研究を前進

影響



## JST RISTEX 問題解決型サービス科学研究開発プログラム [2010-]

- ▶ 価値共創を目的とした機能発現
- ▶ 顧客による使用と機能構成を起点とした価値共創の枠組み (個人旅行者の観光プランニング) [原]

影響



## サービスドミナントロジック [2004-]

- ▶ サービスマーケティングの新潮流
  - ▷ モノ = 価値提案
  - ▷ サービス = 価値共創プロセス
  - ▷ 交換価値 と 使用価値



\*原の経験として大きな蓄積